

# 私たち、伝統文化の担い手です



箏を弾く部員もいます。中央は箏を教える外部顧問の平岡妃女さん

## 清風中学校・高校(大阪市) 和楽器



「海外の人や同世代の人に魅力を伝えたい」という邦楽部のみなさん＝5日、大阪市天王寺区の清風中学校・高校

### 「かすれ」がCOOL!

尺八や箏(おこと)などの和楽器に夢中な中高生もいます。大阪 1から高3まで16人が

所属する邦楽部があります。

2005年に尺八部が創部。箏を演奏する部員が加わり、15年に邦楽部になりました。尺八は、都山流の演奏家、三好荒山さんに教えています。

尺八は、音が出るまで難しいといわれます。「首振り三年ころ八年(首を振って音の加減ができるまで)3年、よい音が出るようになるには8年かかる」という言葉も。部員たちは最初、手のひらに小さな田をかき、そこに息を吹いてあてる練習を繰り返しました。



尺八を吹く部員。後列右が三好荒山さん、後列左は顧問の辻村健一さん

### 音色は海を越えて

三好さんは「きれいな音を追う西洋楽器と違い、尺八は『汚い音』を表現します。そこが海外の人に人気です」。琵琶と尺八とオケストラによる「ヴェンバー・ステップス」(武満徹作曲)という楽曲は、世界で演奏されています。

3月に英国に短期留学した部員の横川颯太さん(高2)は、現地

の人に尺八の演奏を聴かせました。「同世代の人からCool! (かっこいい!)という反応があり、うれしかったですね」

部員の阪尾正己さん(高2)は尺八の音が好きで「音のかすれに深みを感じる」といいます。「でも、同級生でも『尺八って、どんな音、出るん?』と、あまり知らない人も多め、日本の伝統の良さを知り、広めていきたいですね」

邦楽部は8月13日、四谷区民ホール(東京都新宿区)で開かれる三好さん主催の定期演奏会で、東京都杉並区立泉南中学校の箏曲同好会と共演します。